

④6: 身近な自然を楽しむ：紋章に使われる百合の意味と魅力

Enjoy the surrounding nature: The meaning and appeal of the lily
used in coats of arms

6/27/2024

吉野輝雄

6月一ヶ月を振り返り、周囲を華やかに飾った花は何かと問われたら、多くの人は紫陽花を挙げるのではないかと先号で取り上げた理由だが、他に挙げるとしたら？バラ(薔薇)かユリ(百合)ではないか？しかし、バラは春夏秋冬それぞれの季節に個性的な花を咲かせるので、今回は多様な色の百合(栽培種のスカシユリ)と同時期に咲いていた百合の仲間(カンゾウ/萱草)に焦点を当てることにした。実は、これまでも百合を特集したことがあるので、ご参照下さい。

・アルバム：<http://www.sengawacx.com/EnjoyNaturesurroundedNo9.pdf>

・解説：<http://www.sengawacx.com/CommentEnjoyFlowersNo9.pdf>

今回、百合の語源を調べたが、すでに日常語の域から離れていると思った、その代わりに学校の紋章に百合が使われている事に興味を惹かれた(参照：[「強く、優しく。百合の花」](#))。例えば、立教大学、白百合大学、金城学園大学。百合の花は、純潔、謙虚さ、優しい心、あるいは美のシンボルとされ、古代ローマでは「希望」の象徴であり、キリスト教では聖母マリアの「持物とされている事を知った。

近隣の家の庭先や公園に華やかに咲く百合の花に魅了され、多くの写真を撮った。その中で気づかされた事がある。百合と言えば、かつてはヤマユリ(山百合)、テッポウユリ(鉄砲百合)、オニユリ(鬼百合)が主であったが、最近はあまり見かけず、目に映るのはカラフルで華やかな栽培種のスカシユリが圧倒的に多いことだ。私の子ども時代には、ヤマユリを里山の林で見つけると大喜び、側の木の枝で掘り出して持ち帰り、庭に植えて咲かせたものだった。橙色のオニユリは近所の家から株をもらってきて植えると毎年咲き、咲き終わると茎の間に小さな球根を残す。それを土に戻し、翌年咲くのを楽しみにしたものだった。

さて、ユリの仲間とされたヤブカンゾウ(藪萱草)がある。近隣の庭にユリに似た橙色の花を咲かせる。今年、芦花公園の林の中に今までにない数の花を咲かせているのを見て感激した。しかし、花の開花期間は短く、何と(かわいそうに)多くの株にカイガラムシが寄生していた。

なお、近隣の家の庭先にニッコウキスゲ(日光黄菅)を、百合に似た細く白い花を咲かせた美しいハマユウ(浜木綿)を何ヶ所かで見つめた。

(因みに、ヤブカンゾウはススキノ科、ニッコウキスゲはゼンテイ科、ハマユウはヒガンバナ科の植物。近年、ユリ科とする分類が改正された)。